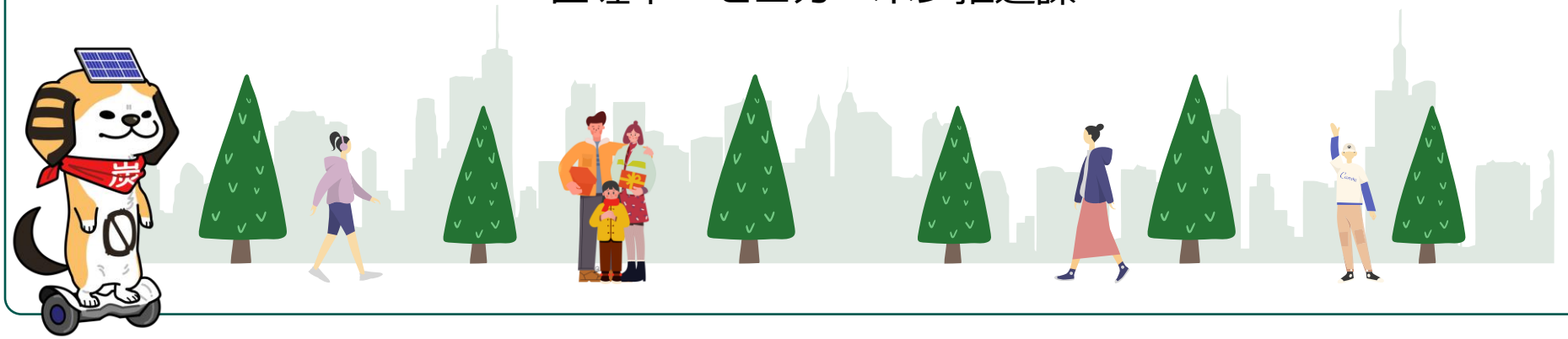
匝瑳市

そうさ！匝瑳市における地域共生型再エネ取組！

～営農ソーラーシェアリングによる耕作放棄地の有効活用～

令和８年１１月２４日

匝瑳市　ゼロカーボン推進課



目次

1. 匝瑳市のプロフィール

2. 地域共生型の営農ソーラーシェアリング

3. 匝瑳市の脱炭素先行地域事業

4. 今後の展望

１．匝瑳市のプロフィール

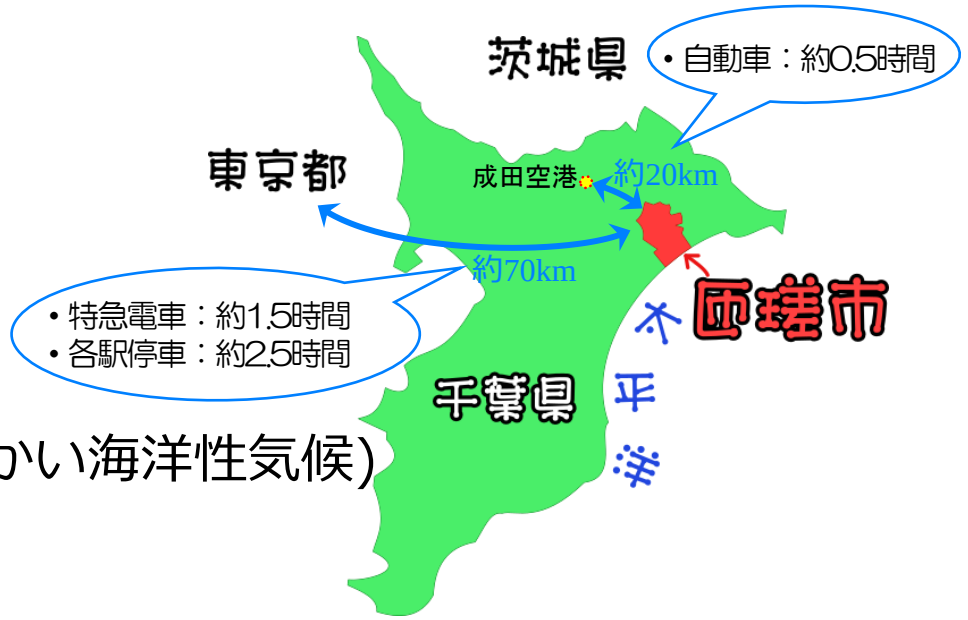




匝瑳市のプロフィール

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 千葉県北東部に位置
- 東京の都心から70km圏内
- 成田国際空港から20km圏内
- 主要部分は広大な田園地帯
- 年平均気温は15℃(夏涼しく冬暖かい海洋性気候)




▼九十九里浜


▼里山

H18.1.23に「八日市場市」と「野栄町」が合併して誕生

- 人口 32,508人：516人減 (R8.3.31現在)
- 世帯数 14,975世帯 (R8.3.31現在)
- 面積 101.48k㎡ (R7.3.31現在)
- 高齢化率 37.4%：0.5ポイント増 (R7.3.31現在)
- 令和4年4月に旧野栄町が過疎地域に指定

匝瑳市のプロフィール

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 「難読地名の東の横綱」だった？
- 読めない　書けない　どこにある





- 「匝」は訓読みで“めぐる”と読み
  「瑳」は訓読みで“あざやか”と読む

匝瑳市のプロフィール

匝瑳市
脱炭素先行地域

◎　稲作を中心とした農業

・里山から九十九里海岸まで広大な田んぼや畑を有し、農作物の生産がさかん。

・お米の生産量は千葉県内で第3位。





◎　植木産業

・植木の生産農家数、栽培面積、品種ともに日本屈指。

・千葉県が認定する「植木伝統樹芸士」と「植木銘木100選」の半数以上が匝瑳市の職人と銘木。







赤レンガ駅舎と
匝瑳市の植木(東京駅)

２．地域共生型の営農ソーラーシェアリング





営農ソーラーシェアリングとは

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 営農ソーラーシェアリングとは、一時転用許可を受け、農地に簡易な構造でかつ容易に撤去できる設備による発電事業
- 太陽光を農作物と発電設備でシェアすることで、営農を継続しながら発電事業を実施することが可能



露地の畑の上部にパネルを設置



パネル下でのトラクターによる
耕運作業の様子

画像提供/市民エネルギーちば（株）

匝瑳市の営農ソーラーシェアリング

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 匝瑳市では市民エネルギーちば等の活動として、畑作営農ソーラーシェアリングを2014年より実施
- 2023年（令和５年）には国内最大規模のメガソーラーシェアリング施設（2.7mw）を新たに設置
- 農林水産省「営農型太陽光発電取組支援ガイドブック」等で紹介。地域共生型の発電設備を展開

イメージ

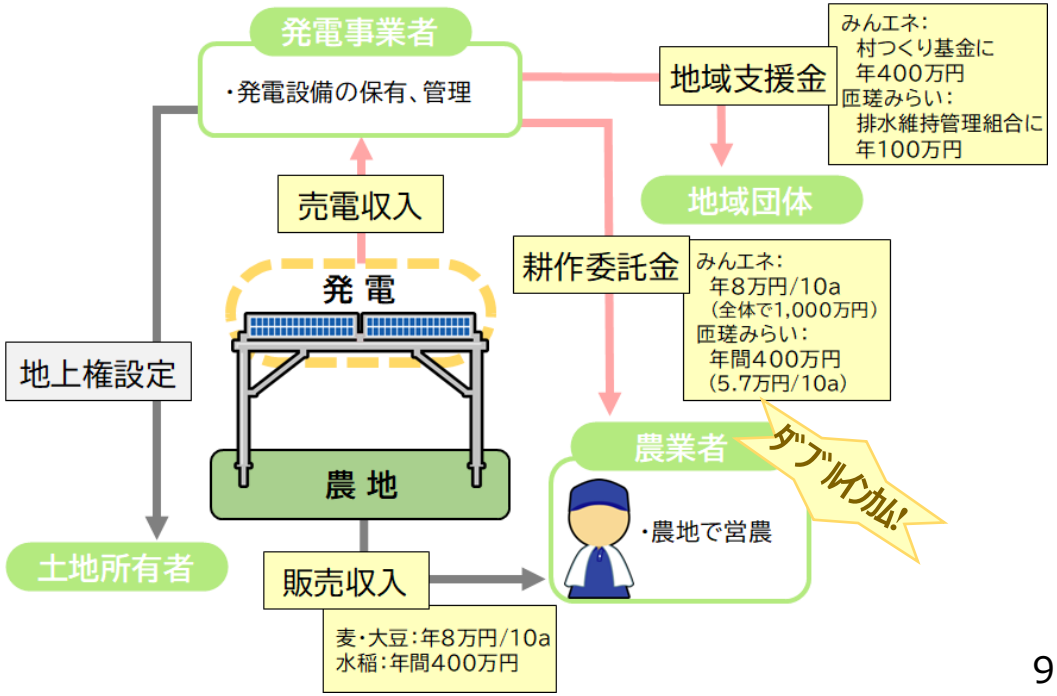
- 1mw、2.7mw等の大規模ソーラーシェアリング
  50kw以下の低圧設備を導入
- 20ha以上の全ての圃場で有機栽培を実施
  農薬・化学肥料不使用
- 10haの耕作放棄地を再生



画像提供/市民エネルギーちば（株）

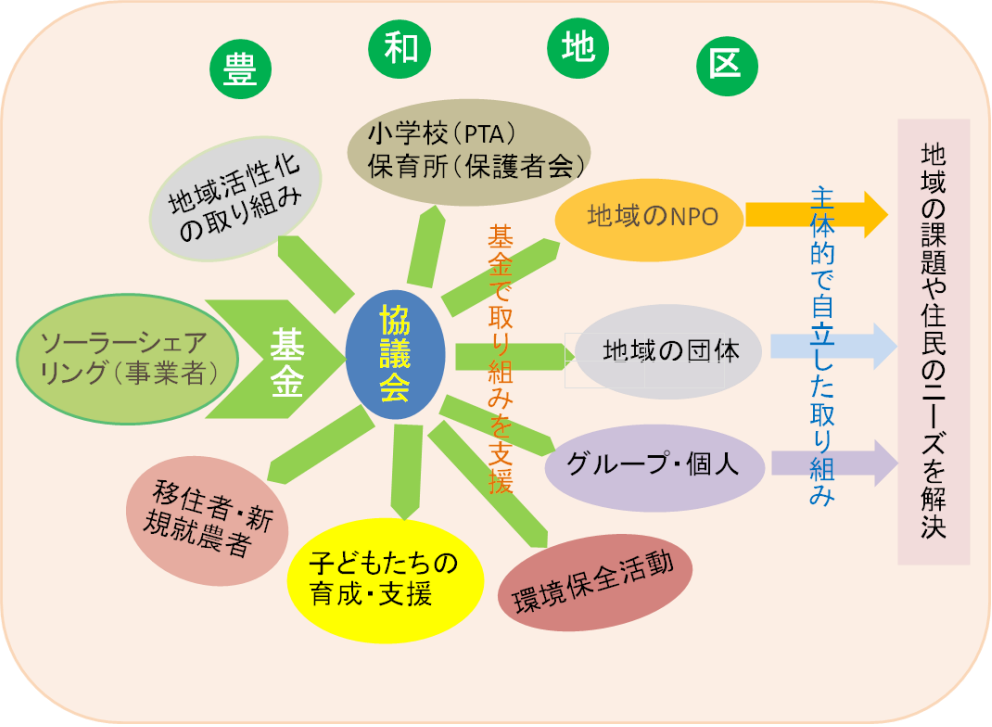
スキーム

- 土地所有者、農業者、発電事業者の3者が存在
- 発電事業者は土地所有者及び農業者、地域団体へ売電収入の一部を支出
- 農業者は農業収入+耕作委託金で農業を持続可能に



地域の基金を活用した取組

- 地域の協議会において、ソーラーシェアリングの売電収入の一部を積み立てた基金を活用し、以下の地域の取組を支援
  - 不法投棄されたごみの処理や、耕作可能な状況への圃場の整備等を通じた耕作支援
  - こども教室への支援や地域の環境教育、移住者への支援なども実施
- 地域の小学校における環境教育等の教育環境の整備（行政課題）についても基金を活用して課題解決を推進





不法投棄されたごみの処理



小学校へPCモニター寄贈



こども教室への助成



防災部門における官民連携

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 低圧の営農ソーラーシェアリング設備は災害時に携帯電話等の家電製品へ電力供給が可能
- ２０１９年９月の台風では千葉県で大規模な停電が発生したが、ソーラーシェアリング設備がソーラー充電所として開放され、地域住民を支援
- 翌年２０２０年には、市と発電事業者に関係する「豊和村つくり協議会」と連携協定を締結し、災害に強いまちづくりを推進



ソーラー発電設備による災害時の電力充電所

災害時における支援協定

豊和村つくり協議会などと締結

市と豊和村つくり協議会は９月１日、「災害時におけるソーラー発電設備による電力供給に関する協定」を結びました。

本協定は、災害時に豊和地区を含む大規模停電が発生した場合、市からの要請を受けて、同地区の飯塚開畑に設置されているソーラー発電設備による電力を、市民に対して無償で提供するという内容。設備へ直接つなげることにより、携帯電話やスマートフォンなどの情報通信機器、パソコン、家電製品（1,500ワット以下に限る）などへの電力の供給が可能です。

オーガニックビレッジの推進

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 匝瑳市では令和７年１１月に「匝瑳市オーガニックビレッジ宣言」を実施。有機農業等の環境に優しい農業の推進を宣言。地域とも連携して有機農業を推進。
- ソーラーシェアリングの郷では、ソーラーシェアリングと有機農業を組み合わせたハイブリッドな環境配慮型農業が展開。有機農業による環境負荷低減・農業振興・地域活性化を推進。
- 有機農業の展開のため、セミナーや研修の実施、学校給食での有機米を活用。







３．匝瑳市の脱炭素先行地域事業





匝瑳市：そうさ！匝瑳モデルで脱炭素！
～ソーラーシェアリングを中心とした脱炭素化推進プロジェクト～

【施策間連携モデル】
農業×脱炭素
【地域間連携モデル】

環境省

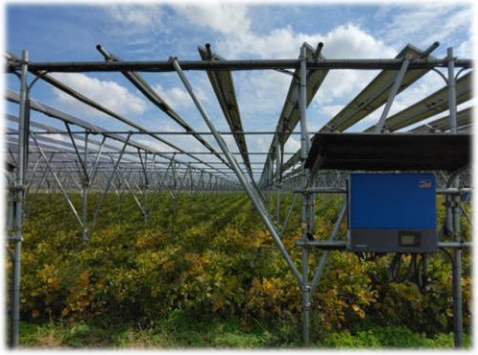
脱炭素先行地域の対象：**豊和・春海地区、飯倉地区、中央地区**
主なエネルギー需要家：戸建・集合住宅2,432戸、民間施設47施設、公共施設11施設
共同提案者：匝瑳みらい株式会社、市民エネルギーちば株式会社、株式会社TERRA、株式会社ソーラーシェアリング総合研究所、株式会社しおさい電力、株式会社富士テクニカルコーポレーション、学校法人千葉学園 千葉商科大学、国立大学法人福島大学、匝瑳市植木組合、株式会社ETA Network Japan、株式会社エコグリーン、昭和産業株式会社、ボーソー油脂株式会社、ファイトケミカルプロダクツ株式会社、千葉県大利根土地改良区、クレアトゥラ株式会社、株式会社EG Forest、株式会社カインズ、八日市場金融団、三菱UFJ信託銀行株式会社、特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所、匝瑳市商工会

取組の全体像

市の主要産業である稲作農家が集積し、**従来から畑作営農型ソーラーシェアリング**(SS)が導入されている豊和・春海地区における**水田営農型SSの導入**等により、脱炭素化を実現。福祉・医療施設等を中核に「生涯活躍のまち」づくりを進める飯倉地区、市役所等の公共施設や商業施設が集積する中央地区と連携した**農福・防災連携**の取組により、**高齢者の雇用確保**や市街地での**レジリエンス強化**、更に営農型SSの研究・人材育成を行う**ソーラーシェアリング・アカデミー**事業の実施により、農業振興による**関係・交流人口増加**と**移住・定住の促進**を目指す。

1．民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

① 独自の**細型パネル**を採用し、水田2か所、畑1か所にオフサイト営農型太陽光発電(4,170kW)を導入することにより、日照量減少の影響を軽減
② 水田・畑作営農型SSにて発電した電力は地域新電力「**しおさい電力**」経由で先行地域内の高圧需要家に供給
③ 住宅・民間施設等にオンサイト太陽光発電(6,363kW)・蓄電池を導入


ソーラーシェアリング(豊和・春海地区)

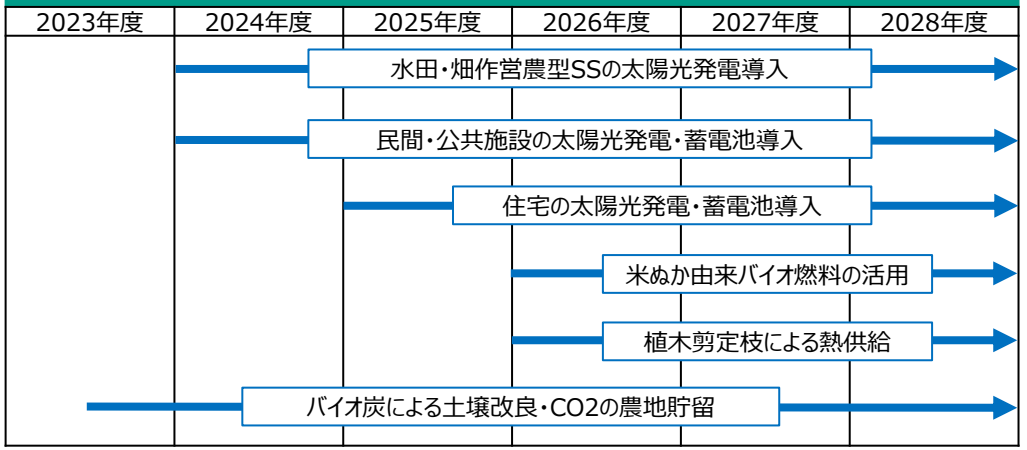
2．民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

① **米ぬか**から製造される米油由来のバイオ燃料プラントを豊和・春海地区に導入し、製造された燃料を地域の**農業機械に利用**することにより軽油利用を軽減、生産した米を**ゼロカーボン米**としてブランド化
② 市内の植木業者から排出される**剪定枝を燃料**として活用するバイオマスボイラーを導入し、避難所となる公共施設に熱供給を実施
③ 植木剪定枝や放置竹林の竹等から**バイオ炭**を製造し、市内の田畑に散布し土壌改良剤として活用しながら、CO2の**農地貯留**を実施
④ 土地改良区による水田の給水時期調整により、**中干期間を延長**しメタンガス発生を抑制

3．取組により期待される主な効果

① **営農型SSによる売電収入**、**バイオ炭**販売やそのカーボンクレジット収益等、新たな収入源を確保する**新しい農業経営モデル**の構築により、高収益化、新規就農者確保、関係人口増加を推進
② 営農型太陽光発電取組支援ガイドブック(農林水産省)の事例として取り上げられている市民エネルギーちばが中心となって運営する**ソーラーシェアリング・アカデミー**を通じ、**水田営農型SSのノウハウ**等を市内外に共有。また、滋賀県米原市、新潟県関川村、熊本県あさぎり町との地域間連携により、細型パネル共同調達によるコスト低減等を図るとともに、**営農型SSの普及拡大**や**人材育成**、**他地域への横展開**を推進

4．主な取組のスケジュール



民生部門電力の主な取組

匝瑳市
脱炭素先行地域

A) 水田２か所、畑１カ所にオフサイト営農型太陽光発電(2,220kW＋1,950kW) を導入
（発電した電力は株式会社しおさい電力経由で先行地域内の高圧需要家に供給）

B) 住宅、民間施設等にオンサイト太陽光発電(6,553kW)、蓄電池を導入

C) 一般家庭、民間施設、公共施設に省エネ改修（ZEB、断熱含む）を実施







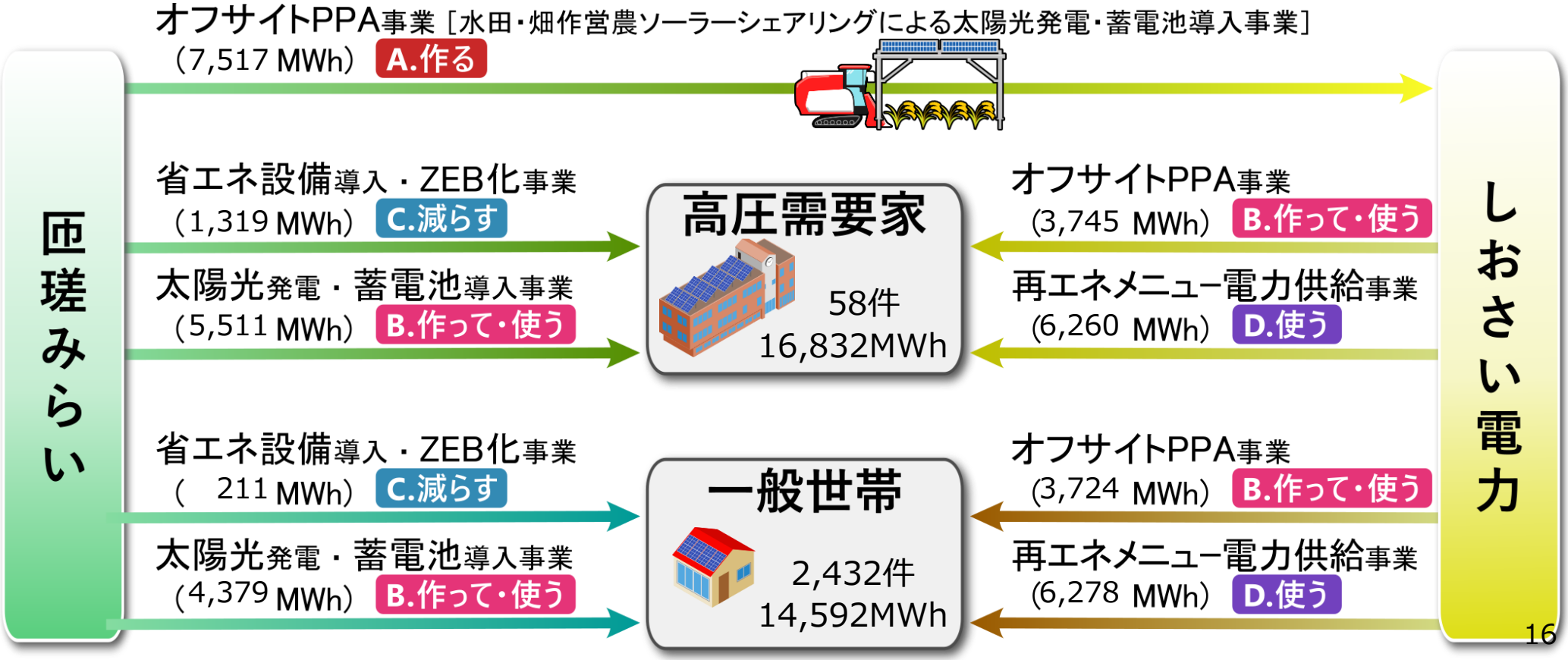




民生部門電力のCO2実質ゼロに向けたアプローチ

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 匝瑳みらいを中心として、オフサイトPPA事業や、オンサイトPPA事業、省エネ設備導入事業を実施
- 省エネ事業を通じて使用電力を減らしつつ、オンサイトPPA事業により再エネを供給
- オンサイトPPA事業でも足りない部分は、オフサイトPPA事業由来の電気を、地域内の小売事業者及び共同提案者である、しおさい電力から供給することで実質ゼロを目指す



これまでの取組実績

匝瑳市
脱炭素先行地域

【令和6年度】　太陽光発電設備および蓄電池の導入：公共4施設、民間5施設、個人7件
庁用電気自動車の導入：5台

【令和7年度】　太陽光発電設備および蓄電池の導入：公共2施設、民間5施設、個人53件
公共施設EV充電設備3箇所、バイオ炭製造装置導入












４．今後の展望





稲作農業の課題解決に資する事業

匝瑳市
脱炭素先行地域

- 稲作農業が盛んである一方で、物価高騰や後継者不足、米価の下落等の課題を抱えている
- 本市の先行地域事業の一環で、水田営農ソーラーシェアリングを展開予定。令和８年10月に起工式を実施。発電設備容量2,220kwの日本一の発電設備を7haの圃場に設置中
- 売電収入の一部は設備下の耕作者(耕作委託金）や地域の農業（水路の管理組合）へ還元。地域共生型の発電事業を推進
- 収益性の向上が求められる稲作農業に耕作委託金を付与されることで、稲作と売電のダブルインカムにより、人材確保も含めて、稲作農業の持続可能性を高めていく「匝瑳モデル」を構築

イメージ

- 耕作第一で発電設備を設置
- トラクターやコンバインに合わせた高さや幅で施工





※設置イメージ

進捗状況





◀起工式の様子

脱炭素先行地域

～2050年ゼロカーボンシティを目指して～
匝瑳市

